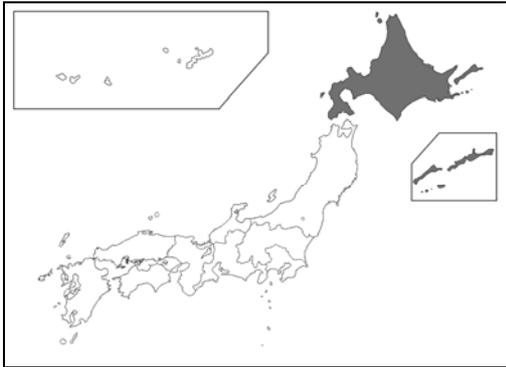


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 5 月)	今回 (平成 27 年 8 月)	
鉱工業生産	下げ止まっている	<u>緩やかに減少</u>	
住宅建設	減少	増加	

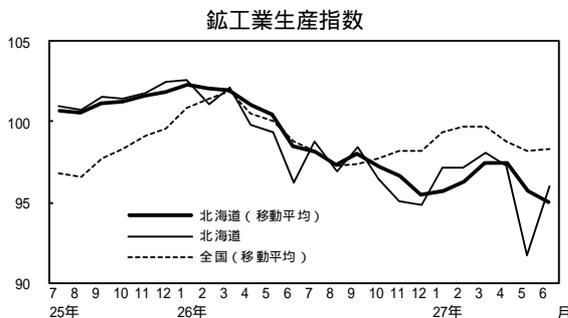
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。

4～6月期には、生乳生産は牛乳等向けが増加したため、総量では981,689tと前年比0.9%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比71.4%減となった。

(2) 鉱工業生産は、緩やかに減少している。

4～6月期には、食料品は、主に乳製品、清涼飲料水等が不調だったことから減少した。パルプ・紙は、工場の定期修理等を受けて減少した。電気機械は、前期におけるスマートフォン向け端末の増産の反動を受けたこと等により、減少した。鉄鋼は、工場の補修工事や設備の老朽化で生産が停滞したこと等から、減少した。輸送機械は、自動車駆動伝動装置の生産が振るわなかったこともあり、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
食料品	24.2	2.7	2.8	0.4	5.4	0.0
パルプ・紙	11.9	4.9	8.9	9.8	2.2	4.4
電気機械	11.7	5.3	4.8	7.2	11.3	14.9
鉄鋼	7.5	3.3	4.3	4.3	14.9	13.2
輸送機械	7.0	2.6	2.1	0.0	10.0	7.4
鉱工業	100.0	2.0	2.5	0.8	5.8	4.7

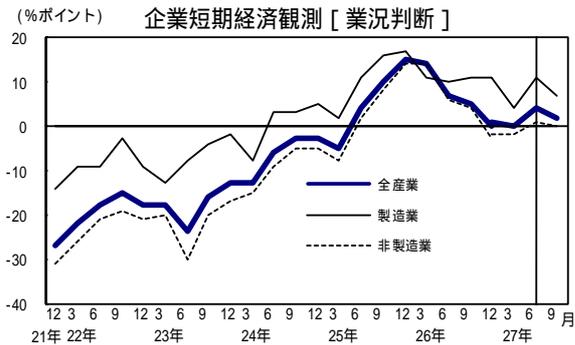
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

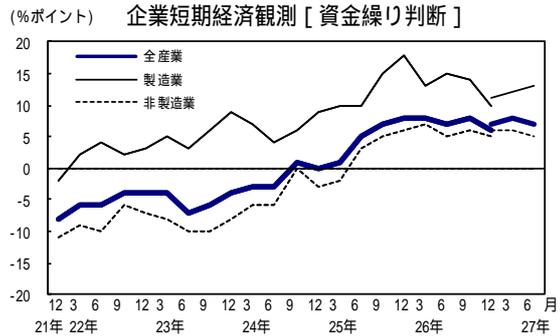
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

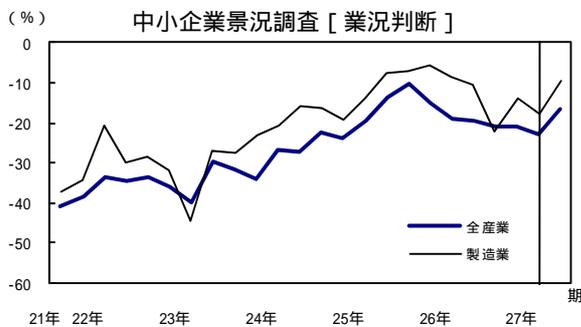
(3) 業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

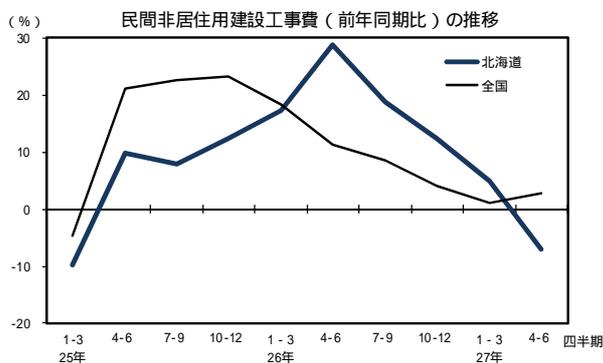


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「公共工事が発注ベースで前年割れとなっているため、やや悪くなっている(その他サービス業[建設機械レンタル])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

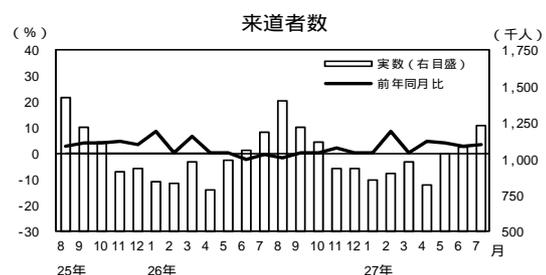
	26年度実績	27年度見通
全産業	9.1(4.3)	9.9(0.2)
製造業	17.6(7.8)	19.5(5.7)
非製造業	25.3(2.8)	6.1(3.0)

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、緩やかに増加している。

来道者数は、一部路線の機材が大型化したことや、訪日客の観光需要が依然高かったこと等により増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4月は前月比0.3%減、5月は同0.6%減、6月は同0.7%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他すべての品目で前年を上回った。

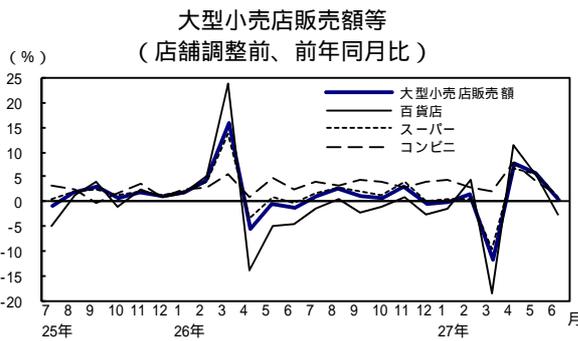
5月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他すべての品目で前年を上回った。6月は、飲食料品、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品は前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品が前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（7月）[家計動向関連（現状）]

北海道地域の家計動向関連DIは、55.6となり前月より2.4ポイント上昇した。

「中国本土からの団体観光客が引き続き好調に推移している。国内からの一般団体客も滞在型の客が多く、宴会などの付帯収入も見込める（観光型ホテル）」など、「良くなっている」とする回答が増加した。

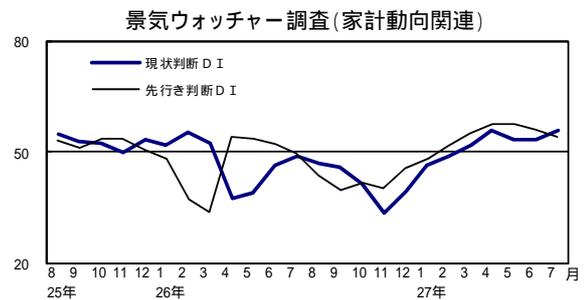
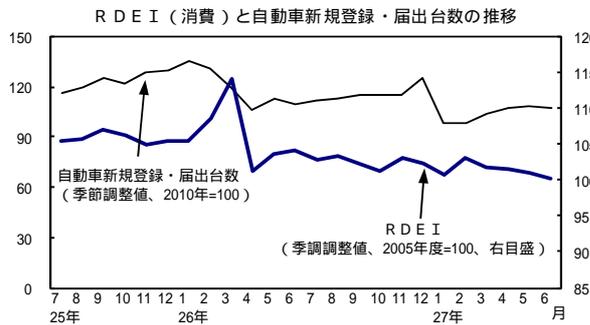


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	1.0	0.3	0.6	0.7
大型小売店(*2)	4.4	7.7	5.6	0.3
百貨店(*2)	4.2	11.3	5.1	2.7
スーパー(*2)	4.5	6.8	5.7	1.0
コンビニ(*2)	4.2	8.0	3.8	1.2
乗用車(*3)	3.6	2.1	8.2	1.2
(季節調整値)(*3)	8.1	3.6	1.3	1.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

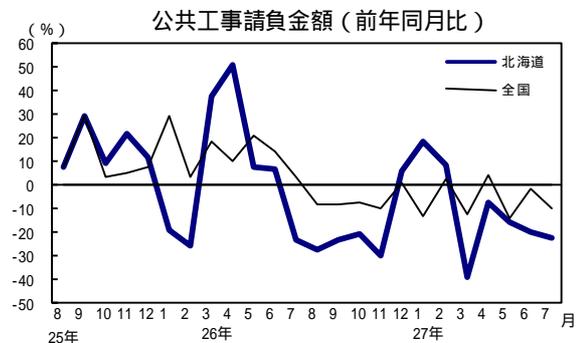
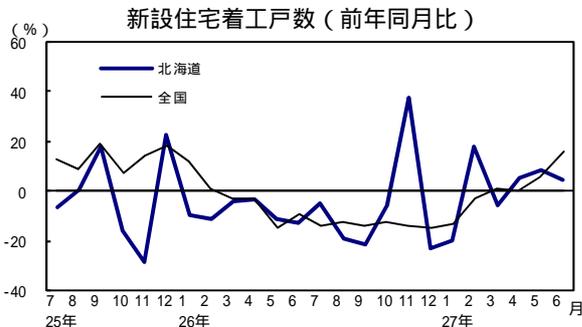
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

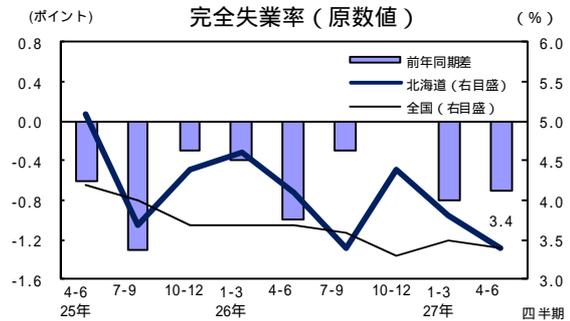
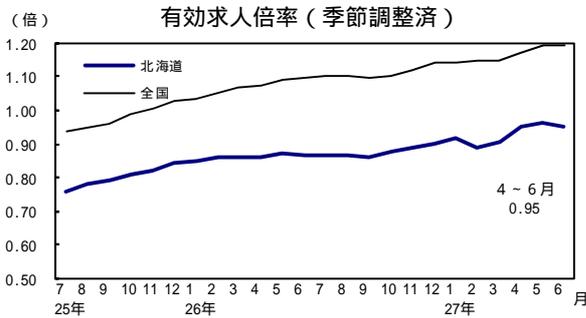


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

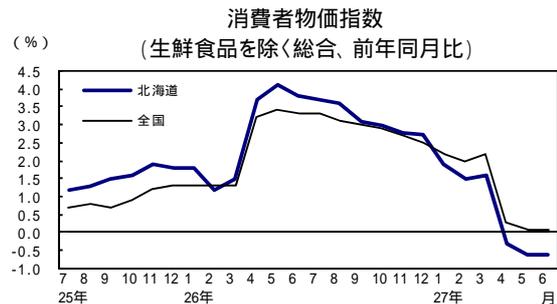
「当社の人材紹介事業において、採用数が増えている。また、行政官庁から受託している、若年未就職者への就職支援事業においても、以前と比べて採用までの期間が短くなっており、採用数も増えている。これらのことから、企業の採用意欲が高まっていることがうかがえる（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、下落に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	73	59	82	61	29
（前年比）	3.9	14.5	10.9	20.8	20.8
負債総額	151	81	245	136	50
（前年比）	20.0	41.5	55.7	22.9	38.0



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・景気が上向きになるような材料が見付からない。円安が進み、物価の値上がりも収まらず、一般市民の感覚としては不景気と感じてしまう（高級レストラン）

<先行き>

・円安、インフレが続いているなかで、特定の企業しか潤っていないため、今後については変わらない（観光名所）

